

農林水産部林業課・森林整備課

成果指標(年次)	H26	H27	H28	H28/H27	H29	H30	H31
原木生産量(万m ³)	41	48	52	108%	56	60	64
県産原木自給率(%)	33	38	39.5	104%	41	42.5	44

平成28年次の原木生産状況

単位:m³

平成28年度主な取り組み

需要先別	年次	1月～10月の累計値	年次合計
1. 木材市場	H27	80,283	99,901
	H28	97,381	—
	H28/H27	121%	—
2. 合板用	H27	81,115	93,887
	H28	73,377	—
	H28/H27	90%	—
3. 製紙用チップ	H27	177,617	210,379
	H28	166,605	—
	H28/H27	94%	—
4. 燃料用チップ	H27	87,346	122,400
	H28	178,489	—
	H28/H27	204%	—
合計	H27	426,360	526,568
	H28	515,851	—
	H28/H27	121%	—

☆森林組合と木材生産業者の連携による「伐採と再造林等のガイドライン」策定による主伐・再生の着実な実施

☆主伐助成

☆中間土場の整備助成

☆生産基盤整備(道・機械)助成

☆担い手育成

平成28年次生産動向(課題)

□木材市場の取扱量が近年に
なく増加傾向にあり、原木増産が
本格化している。

□併せて、県内2か所のバイオマ
ス発電が本格稼働し、燃料用
チップも順調に協定量を供給中。

□平成28年10月までの年次原木
生産量は調査値累計で515千m³
で、対前年の121%の伸びとなっ
ていることから、平成28年次の目
標は達成する見込み。

■一方で、合板用や製紙用の供
給量がやや減少してきているの
で、特に旺盛な需要のある合板
用の原木供給の強化を進める必
要あり。

1. 木材市場は県外産含む県内市場調査値
2. 合板用は県内産協定分(境港含む)の調査値
3. 製紙用チップには製材端材チップ等も含めた製紙工場の調査値
4. 燃料用チップは県内産協定分の調査値

※成果指標に対する最終的な実績(生産量、自給率)は、4月に発表される国の木材統計調査結果と上記調査値等を踏まえて確定します。

木材製品の品質向上・出荷拡大プロジェクト ～木材製品県外出荷しまね事業体連合の取組み状況～

農林水産部林業課

1. プロジェクトの目的

製材・合板工場などで整備されてきた高品質・高付加価値加工施設を活かし、木材製品の品質向上と出荷拡大を図る。

2. 木材製品県外出荷しまね事業体連合の取組み

○ 県内の製材所等25社が、県外の大規模なマーケットに高品質・高付加価値な県産木材製品のPR・販売促進を連携して行い、新たな販路を開拓するとともに出荷量の拡大を図っている。

(1) 平成28年度の主な活動状況

① 県外展示会への出展

平成28年度展示・商談会出展状況

展示会名	開催地	期間	出展者数	来場企業数
KENTEN2016	大阪府	H28. 6. 8～18	6	75
建築総合展NAGOYA2016	愛知県	H28.10.14～16	9	34
ジャパンホームショー2016	東京都	H28.10.26～28	8	229
神々の国しまねの木展示・商談会2017 *県主催	大阪府	H29. 1.26予定	15	-

※KENTEN、建築総合展NAGOYA、ジャパンホームショーの来場企業数は、名刺交換した企業数

② 県外での建築物展示会 ※組織内企業3社が納材

○N邸(滋賀県大津市) 構造見学会 H28.6.11～12

③ 「神々の国しまねの木」製品カタログ(平成28年度版)作成



KENTEN2016



ジャパンホームショー2016



製品カタログ(表紙)

(2) これまでの成果の一例

① 高付加価値製品の開発、新たな販路の確保

- 異樹種3層CLTパネルの開発→家具分野への進出・・・組織内企業・中山間地域研究C連携
- 窒素加圧熱処理材の製品化→エクステリア分野への進出・・・組織外異業種企業との連携

② 生産体制強化に向けた設備投資意欲の向上

- 製材加工ラインの新設・増設
- モルダール等高次加工機械整備
- 乾燥機等高品質化機械整備

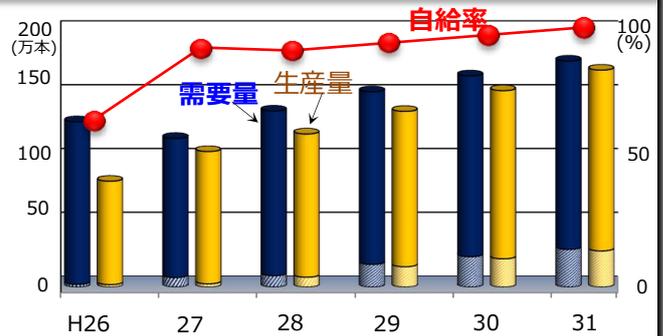
参考：組織内企業の県外出荷額の推移(県試算)

H23 : 6億円
H24 : 7億円
H25 : 8.3億円
H26 : 9億円
H27 : 10.5億円

成果指標

項目	単位	PJ目標	
		H26	H31
苗木生産量	万本	81	170
県産苗木の自給率	%	87	96

※平成34年度に自給率100%を目指す



平成28年度の動き

○優良苗木の増産

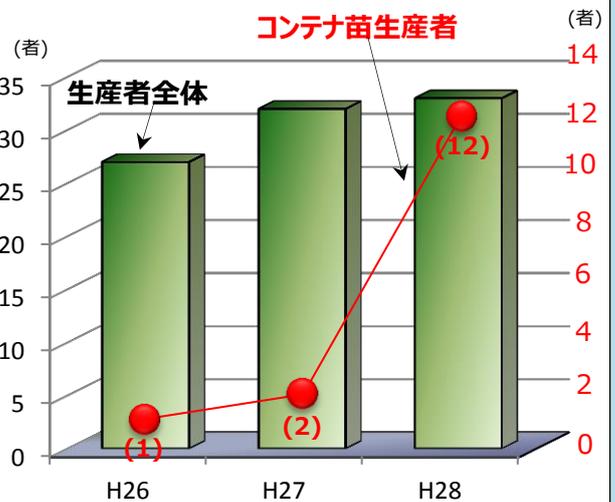
新規参入者

- いちご生産農家が農業ハウスを活用して生産開始 (安来市)
- 農事組合法人が農業ハウスを活用して生産開始 (出雲市)
- 森林組合が個人へ委託生産開始 (海士町)
- 民間会社(植木関係)がコンテナ苗生産する動き (益田市)



H26から6者増加

苗木生産者合計	(者)		
	H26	H27	H28
①裸苗のみ	27	32	33
②裸苗+コンテナ苗	26	30	21
③コンテナ苗のみ	1	2	9
			3



施設整備支援

新農林水産振興がんばる地域応援総合事業(県単)H28～

- 苗木生産者へ苗畑用機械、コンテナ苗生産施設の導入費補助
(平成32年には現状より約23万本増産計画)

【導入実績(計画)】

○平成28年度 8事業体 (事業費: 1.2百万円)



技術普及

- 苗木生産者への生産指導を各地域で実施
- コンテナ苗視察研修会を実施 (岡山、鳥取)
- コンテナ苗生産技術研修会を実施 (9月)
- 林業種苗生産事業者講習会を実施 (12月)

県による率先利用

- 県営治山事業でコンテナ苗を率先利用予定
- 国有林野事業ではコンテナ苗を使用中
(H28予定: 35千本)

県立農林大学校林業科の状況について

1 卒業予定者の就職先

平成28年度 6名の就職先は以下のとおり

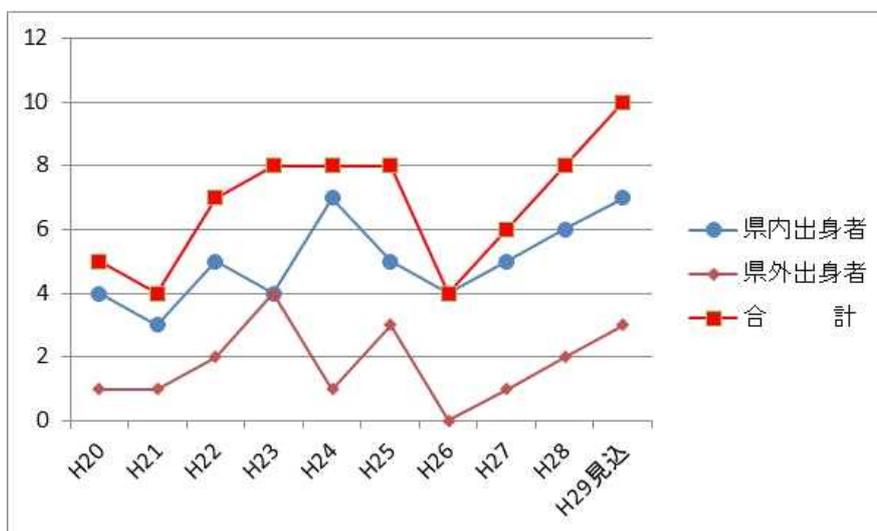
- 県内 森林組合 4名 ○県外 林業事業体 1名（県外入学者）
- 林業事業体 1名

2 平成29年度入学者の見込み

現時点（推薦入試）の合格者は以下のとおり（定員10名）

- 県内 7名（松江市2名、浜田市、出雲市、大田市、益田市、津和野町）
- 県外 3名（山口県2名、鳥取県）

■過去10年間の出身別入学者数の推移



■過去10年間の男女別入学者数の推移

